

信州伐木チャンピオンシップ 2024競技報告書

～木曾谷・伊那谷フォレストバレー関連イベント～



主催：信州伐木チャンピオンシップ実行委員会

(長野県 / 長野県森林組合連合会 / 長野県木材協同組合連合会 / 一般財団法人長野県林業労働財団 / 林業・木材製造業労働災害防止協会長野県支部 / 一般社団法人長野県林業普及協会 / 木曾町)

後援：林野庁中部森林管理局 / 木曾町

木曾谷・伊那谷フォレストバレーの紹介



信州伐木チャンピオンシップ2024は“木曾谷・伊那谷フォレストバレー”の関連イベントです。
競技を通じた、労働安全意識の醸成・林業の魅力発信により、
木や森に関する人材の育成、交流を推進します。

木曾谷・伊那谷フォレストバレー

木や森を活かし豊かな社会をつくるための知識・技術基盤が整った全国随一の地域



信州大学農学部



林業大学校



上松技術専門学校



INADANI SEES



木曾青峰高等学校

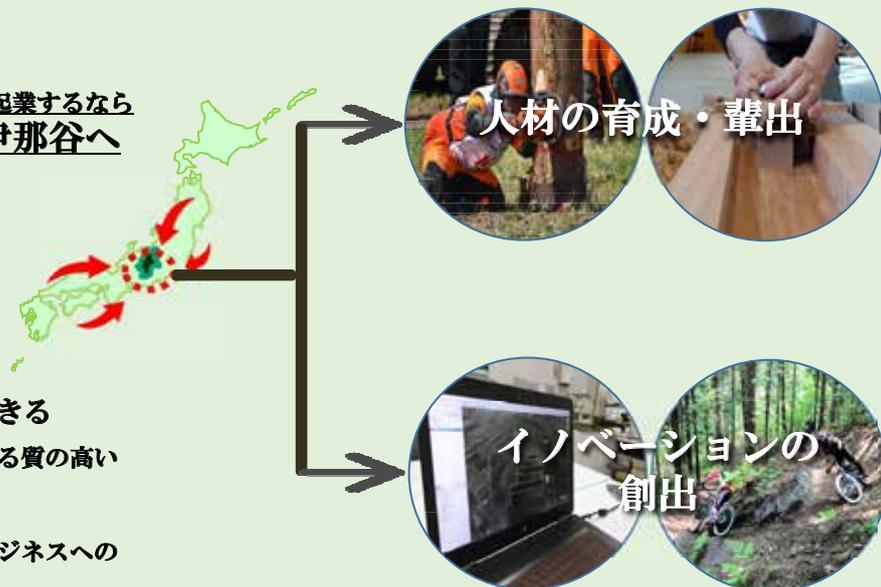


上伊那農業高等学校

木曾谷・伊那谷フォレストバレーが目指す姿

- ① 木や森に関する学びや人材育成の拠点地域
- ② 森林資源を活かしたイノベーションと雇用が生まれる地域
- ③ これらが地域ブランドとして確立し、国内外の交流が生まれる地域

木や森を学び、起業するなら
木曾谷・伊那谷へ



木曾谷・伊那谷だからできる

- ・ 連携することで実現できる質の高い学びのサービス
- ・ 多様な人材の交流
- ・ 知見を活かした多彩なビジネスへのサポート



競技目的・内容



信州伐木チャンピオンシップ2024は、林業就業者の安全意識の向上及び競技を通じた林業就業者間の交流を図るとともに、林業の魅力の発信や新規林業就業者の確保を目的として開催されました。

本競技会では2種目を行い順位を競いました！



①丸太合わせ輪切り競技

地面から7°に傾いた2本の丸太を丸太に対して、赤いラインの上で切り口が合うよう垂直に下側からと上側から切り出します。

切り出した丸太の切断面が段差が少なく、縦横4方向が垂直に近く、きれいな丸太を切り出すと高得点となります。



②伐倒競技(簡易方式)

立木に見立てた丸太(高さ60~90cm)を15m先の目標に向かって伐倒することを想定し、受け口・追い口を切り出します。

受け口・追い口から伐倒方向を計測し、目標とのズレを計測する他、伐倒に要した時間、受け口の深さ、角度、ツルの幅、追い口と受け口の高さの差を1mm単位で計測し採点します。

デモンストレーションとして競技経験者に2種目を披露していただきました！

枝払い競技



丸太に差し込まれた30本の枝を切り払い、スピードと正確性を競います。

伐倒競技(マストツリー)



立木に見立てた木を切り倒し、定められた方向に正確に伐倒する技術を競います。



競技会日程・会場図



事前講習会:令和6年7月24、25日、8月6日 場 所:長野県林業大学校

競 技 会:令和6年10月19日(土) 場 所:長野県林業大学校グラウンド

【プログラム】

9:30 ~

開会式

9:50 ~

デモンストレーション①枝払い競技

10:15 ~

丸太合わせ輪切り競技・休憩

13:00 ~

伐倒競技(簡易方式)

14:45 ~

デモンストレーション② 伐倒競技(マストツリー)

15:15 ~

表彰式

会場図

林業大学校

自動販売機・トイレ



デモンストレーション①
・枝払い競技

本部・受付テント

競技エリア

- ・丸太合わせ輪切り競技
- ・伐倒競技(簡易方式)

ステージ

- デモンストレーション②
- ・伐倒競技(マストツリー)

①和和ぱん
総菜パン、菓子パン各種

休憩テント(食事可)

選手休憩テント

⑥パークス甲信越株式会社
住友建機販売株式会社
林業機械展示、記念撮影

②だべりばキッチン
お弁当、惣菜 各種

③由井機械株式会社
物品販売

④長野県森林組合連合会
パネル展示

⑤長野県林務部信州の木活用課
林業機械体験シミュレーター



事前講習会の様子



開催日時：7月24日、7月25日、8月6日

場 所：長野県林業大学校

競技会に先立ち、選手とスタッフを対象に事前の講習会を実施しました。

講習会の目的は、競技のルールやペナルティ（危険な動作）について学び、競技会の趣旨を理解し、安全意識の更なる向上を図ります。

講師には、これまで多くの伐木競技会に携わり、自身も競技経験がある株式会社ツリークライミングワールド（愛知県名古屋市）の縣毅史さんをお招きしました。座学と実技演習の講習を行い、チェーンソーの基礎的な扱いや競技の趣旨を学び、競技がチェーンソーの安全な操作に繋がることの有用性が伝えられました。

座学

競技会に参加する選手や審判員らが林業大学校講堂で受けた座学講習では、以下のような内容が伝えられました。

- 世界大会・日本大会が行われている伐木競技会の概要と趣旨
- 国内の山林作業中の事故において、伐倒作業における死亡事故率が非常に高い現状を解説
- 伐倒作業における安全性を高めるための重要な視点
 - ・林業におけるチェーンソー作業に関する理論知識の習得
 - ・理論に基づいたチェーンソーテクニックの反復練習の必要性
 - ・危険性を徹底的に排除するための行動慣習化
- 競技におけるルールの説明 等



実技演習

本番の競技会でされる「丸太合わせ輪切り競技」「伐倒競技（簡易方式）」について、実際に競技や計測に取り組み、やり方を学びました。選手及び計測を行うスタッフは、講師から競技の動作をペナルティ（危険な動作）、加点・減点のポイントを学び、当日の動きを確認しました。

初めて伐木競技会に参加する選手もいましたが、実技演習を繰り返し行うことで、競技に関する動作を習得していました。

また、経験のある選手を中心に選手同士で教え合う姿が見られ、技能の向上はもちろん、選手同士の横のつながりが生まれる機会となりました。



選手紹介①



①競技を始めたきっかけ、やりがい ②意気込み ③休日の過ごし方、趣味



選手No.1 松村 哲也 東京大学特任研究員(林業大学校非常勤講師)

- ①学生に林業技術を指導する中でJLC競技に出会いました。JLC競技は学生や林業初心者にとって、安全を優先した現代的なチェーンソー技術のとても良い教材でもあります。学生にJLC競技を指導するに際して自らもJLC競技に取り組んでみたいと考えたのがきっかけです。
- ②競技人口の拡がりとともに、技術レベルも年々向上し、新しいテクニックが生み出されています。技術レベルでは私はもう教え子たちに全くかないませんが、大会参加を通じて私自身が新しい技術を学び、これからの指導に活かしたいと考えています。
- ③登山やバックカントリースキーなどのアウトドアアクティビティが趣味です。野山に出られない時はクルマやチェーンソーはじめ機械いじりやDIYをしています。



選手No.2 江田 能教 有限会社矢守産業

- ①林業大学校の在学中に競技に出会い、安全技術を学びたいと思い始めました。
- ②総合成績1位を目指して頑張ります。
- ③高校の友達と遊んだり、ゲームをしたりして過ごしています。



選手No.3 小酒井 啓治 有限会社矢守産業

- ①学生時代に、チェーンソーの技術を身に着けたいと思い競技を始めました。競技のことを知った時は、大会に興味なかったのですが、いざ始めてみるとチェーンソーの奥深さや、どうすれば上手くいくか試行錯誤すること、日々の練習で少しずつ成長を感じるところが楽しくて競技を続けています。
- ②初めての長野県での大会を盛り上げられるように、良い結果を残したいと思います！
- ③趣味はサイクリングで、ロードバイクに乗って車では通らない道を散策しています。



選手No.4 神農 千愛 有限会社矢守産業

- ①技術が点数化されており、自分がどれだけ成長できたかを実感できるので楽しいです！
- ②周りに流されないように落ち着いてできれば、と思っています。
- ③旅行が趣味です。



選手No.5 有村 凌空 株式会社つなぐ里山

- ①林大で在学時に先輩方がやっているのを見てやってみたくなり始めた。楽しみながら技術を習得でき、競技を通じていろんな人と繋がれる
- ②優勝目指して一つひとつ正確にやっていく
- ③陸上競技の大会に出場、料理をすること





①競技を始めたきっかけ、やりがい ②意気込み ③休日の過ごし方、趣味



選手No.6 田畑 雅伸 ツリーライフサポート株式会社

- ①毎日使うチェーンソーを技術的な面で上達したいと思い、参加を決めました。色々な選手のフォーム、やり方を見て学び日々の仕事に活かしたら良いと思います。
- ②日頃の練習成果を披露してオーディエンスがゾクゾク、ワクワクするような試合をしたい。目指せ入賞!!
- ③5.2.1歳の娘と公園へ行ったり塗り絵をして過ごします。趣味は観葉植物を眺めることです、特に好きなのはアガベという植物にハマっています。



選手No.7 倉田 洋平 ツリーライフサポート株式会社

- ①伐木選手権はルールや動作が日々の仕事の安全性や効率を上げてくれる競技だと感じます。今はまだまだ経験値が少ないですが、作業の中に選手権のルール等を取り入れ、良さを実感しています。さらに安全性などが上がるようトレーニングしていきたいと思います。
- ②意気込みすぎると失敗する性格なので、平常心で挑みたいと思います。いつも通りの自分で競技できたらいいなあ。
- ③家族で出かけ、リラックス時間をもらっています。



選手No.8 山本 鷹彬 ツリーライフサポート株式会社

- ①競技会の練習を通して、基礎を叩き込み、普段の仕事に活かすこと。また、競技会を介して知り合う方々とのご縁を大切にしていきたい。
- ②1番上の景色を見に行きます
- ③長野県内外いろんなところに出かけること。



選手No.9 川村 岳 有限会社カネホ木材

- ①安全に作業していくにはどうすればいいか探しているうちに競技を見つけた。
- ②自分が納得できるスコアを出したい!
- ③仕事と競技が趣味です。



選手No.10 金田 純平 有限会社南信チップセンター

- ①会社で応募したのがきっかけで始めたので、まだ分からないことも多く大変ですが、結果が数字であられるので点数を1ポイントでも上げることがやりがいだと思います。
- ②普段の作業とは全く違う動きだったり、練習時間をつくるのもなかなか難しいですが、ベストを尽くして頑張りたいと思います!
- ③通年ではキャンプ、春～秋はツーリングを楽しんでいます。よくラーメン屋巡りをします。



選手紹介③



①競技を始めたきっかけ、やりがい ②意気込み ③休日の過ごし方、趣味



選手No.11 小林 達也 有限会社南信チップセンター

- ①社長から、良い経験になると勧められて参加してみようと思いました。
- ②覚えることが多く、うまくいかない事もありますが精一杯頑張ります。
- ③休日は子供とサッカーの練習をしたり、試合の応援に行っています。



選手No.12 高橋 良太 有限会社板橋林産

- ①競技の練習をすることによって、安全な作業の意識を高く持つことができ、安全かつ正確で早い作業ができるようになってきたからです。
- ②まずは安全に作業することを第一に考えて、怪我が無く高得点がとれるように頑張りたいと思います。
- ③休日は映画鑑賞や買い物などをよくします。長い連休の時は旅行に行き観光などをするのが好きです。



選手No.13 小松 哲也 有限会社板橋林産

- ①林業がやりたく転職し競技大会がある事を知り、出場する事を決めた。
- ②林業歴は短く技術もないので、運で上位を狙う。
- ③美味しいモノを食べに行く、DIYホームセンター・リサイクルショップ巡り。



選手No.14 溝口 翔太 細川木材株式会社

- ①林業大学校でチェーンソーを扱うようになり、第3回JLCを一年次に観戦し、翌年の西日本鳥取大会に出場する中でチェーンソー技術の向上、安全意識の位置付けをするべく初めたのがこの競技を始めたキッカケです
- ②チェーンソー競技から離れて4年ほど経ち、もう一度この長野大会で競技に参加練習する事で安全意識の確認再認識し日々の現場作業でのチェーンソー作業に活かせるようにしていきたいと思っています
- ③釣り・トレッキング



選手No.15 桑原 二千夏 中信森林管理署

- ①きっかけは林大でチェーンソーの競技があることを知り、楽しそうだったこととチェーンソーマニアの先輩がいたことです。
- ②日頃からチェーンソーに触れられていないので安全第一に楽しみたいです。目指すは長野県大会の初代優勝です。
- ③趣味はスキーです。シーズン中は、暇があればスキーに行きます。



選手紹介④



①競技を始めたきっかけ、やりがい ②意気込み ③休日の過ごし方、趣味



選手No.16 倉本 高緒見 飯伊森林組合

- ①もし優勝したら班員一人あたり1万円くれるから。
- ②頑張ります！
- ③競馬の予想



選手No.17 川面 優 企業組合山仕事創造舎

- ①新人教育に悩んでいた時にチャンピオンシップの事を知り、安全動作や技術向上の為にとても良いと思い、まずは自分が体験してみようと思いました。知り合いに、JLCなどに参加している方がいて、色々教えてもらったのも興味を持ったきっかけです。
- ②林業経験の明らかに若い方が、とても上手にチェーンソーワークしているのを見て、年数ではなく、いかに意識して取り組むかが、大切だとまなびました。この大会を経て、日々の仕事を更にレベルアップさせたいと思います。楽しんで、上達できる良い機会になればと思います。
- ③最近、古民家を改築しています。自分で伐って自分で挽いた木を使った家に住むのが夢です。



選手No.18 衛藤 大空 長野県林業大学校

- ①うまくいかないことも、仲間と練習を重ね成長できることがやりがいです。
- ②安全第一に全力で楽しみます！
- ③趣味はサウナとサッカーです。



選手No.19 小山 恭平 長野県林業大学校

- ①興味があったからです。
- ②頑張ります！
- ③家でゴロゴロ、ハンドボール。



選手No.20 新宮 慈門 長野県林業大学校

- ①当初は将来就職した際に備え、現場作業での技術向上のために競技練習を始めましたが、簡易伐倒や合わせ輪切りなどの競技を練習するにつれ、競技の面白さに気づき、練習するごとに上手くなっていくので自身の成長が実感できて楽しいです。
- ②ベストを尽くして楽しみます！！
- ③旅行、映画鑑賞、銭湯(サウナ)



解説・審判紹介



■ 競技解説員
縣 毅史
株式会社
ツリークライミング
ワールド
(愛知県名古屋市)

- ・2022年まで22年間、ハスクバーナ・ゼノア株式会社に勤務し、伐木競技の選手育成など、競技の普及に携わる。
- ・自身も第1回日本伐木チャンピオンシップに出場
総合4位の好成績を修める
- ・現在は認定アーボリスト、認定ツリークライマーの教育機関を運営する会社経営、伐木指導の講師として活躍中



■ 審判
松村 祐
有限会社矢守産業
(飯田市)

- ・伐木競技歴15年のベテラン選手
- ・第5回日本伐木チャンピオンシップに出場
プロフェッショナルクラス 総合7位の好成績
種目別では「丸太合わせ輪切り競技」で1位を獲得



■ 審判
高山 亮介
有限会社矢守産業
(飯田市)

- ・第4回日本伐木チャンピオンシップに出場
ジュニアクラス 総合1位
第34回世界伐木チャンピオンシップに出場
ジュニアクラス 総合9位
丸太合わせ輪切り競技 銀メダル
- ・第5回日本伐木チャンピオンシップに出場
プロフェッショナルクラス 総合1位
第35回世界伐木チャンピオンシップに出場
プロフェッショナルクラス 総合11位



■ 審判
山岡 空
有限会社矢守産業
(飯田市)

- ・第5回日本伐木チャンピオンシップに出場
ジュニアクラス 総合1位
種目別では、伐倒競技(マストツリー)で最高得点の
660点を獲得
(日本伐木チャンピオンシップにおける新記録を樹立)
- ・第35回世界伐木チャンピオンシップに出場
ジュニアクラス 総合11位





開催日時:10月19日(土)

場 所:長野県林業大学校グラウンド

開会式



開会式では、実行委員会を構成する長野県を代表して須藤俊一林務部長が挨拶しました。挨拶では「SDGsやゼロカーボン社会を背景に森林とそれを支える林業と担い手への期待が高まっている。競技会では練習の成果を存分に発揮し、カッコいい林業の姿を披露していただきたい。」との言葉がありました。

さらに、競技の解説を務めるの縣毅史氏、審判の松村、高山、山岡の三氏から選手へのエールが送られ、選手たちの引き締まる表情が見られました。

枝払い競技デモンストレーション

この競技では6mの丸太に共通のパターンでまっすぐ差し込まれた30本の枝を切り払うスピードと正確性を競います。デモンストレーションを披露したのは、競技経験があり、審判を務める松村祐さんと高山亮介さん。2人とも枝の角度に合わせてチェーンソーを自在にコントロールしながら、観衆もどよめく程のスピードで枝を切り払っていきます。

枝の切り残しが5mm以上あったり、枝が差し込んである丸太に規定以上の深さの傷がつくと減点の対象になるというこの競技。

デモンストレーションで簡易的に計測を行ったところ、得点が高かったのは、先に枝を切り終えた高山さんではなく、高山さんよりも後に切り終えた松村さんでした。

高山さんの切り終えた丸太をよく見てみると、最後の枝の元が数センチ残っていました。どの競技にも共通していますが「スピードが速い=高得点」ではないのが伐木競技の奥深いところです。

「どの競技も現場作業に活きる動作を想定しているのだから、競技ではスピード、正確性、そして安全な動き方が求められます」という伐木競技の趣旨が縣さんより伝えられ、いよいよ1種目目の「丸太合わせ輪切り競技」へと入っていきました。



ミニ知識①～競技種類～

WLC(世界伐木チャンピオンシップ) JLC(日本伐木チャンピオンシップ)ともに正式種目は「伐倒競技」「ソーチェン着脱競技」「丸太合わせ輪切り競技」「設置丸太輪切り競技」「枝払い競技」の5種目で行われています。

ミニ知識②～高山亮介さん～

会場となった長野県林業大学校卒業生。同校卒業生として初の世界大会メダル獲得者。「母校を会場に伐木の大会が開催されるのが嬉しいです。競技参加者が増えていくといいですね」



丸太合わせ輪切り競技



3つのレーンが設けられ、競技が進行していきました。
1つのレーンに対し、赤いラインと青いラインがペイントされ、傾けて設置された丸太が2本ずつ用意されて競技を行います。



競技のポイント

- 傾斜地での作業を想定
競技に使用される丸太は、地面に対して7度の角度をつけて設置されます。常に傾斜地で行われる山林作業を想定している競技で、倒木など木が裂けないように状況に応じて安全に切る技術を想定した競技となっています。
- 主なルール
下から半分を切り出し、残りの半分を上から切り出す順番が決まっています。また、切り始めは上下の青いライン上から切り、切り口は赤いライン上で合わせるルールとなっています。
切り出した丸太の切断面の段差が少なく、縦横4方向が垂直に近いほど高得点となり、繊細にチェーンソーを扱う技術が求められます。



集中する選手たち

チェーンソーのエンジン音が会場に響き、競技開始。日常の現場とは違う平地での作業、来場者からの視線、同時にスタートする他レーンの選手の存在といった競技会ならではのプレッシャーを跳ねのけ、競技に集中して挑む選手皆さんの凛々しい姿がそこにありました。



伐倒競技(簡易方式)



3つのレーンが設けられ、
競技が進行していきました。
60~90cmの丸太を台座に固
定し、15m先のポールを目標
物として、受け口と追い口を
切り出していきます。



競技のポイント

■林業に欠かせない「伐倒」

伐倒競技(簡易方式)では、林業に欠かせない「伐倒」に関する技術を競います。
この競技は、実際に立木を切り倒すのではなく「15m先の目標物に向かって立木を切り倒す」という想定で60~90cmの丸太を使用し、受け口と追い口を切り出し、作業に係る安全性のほか、スピード、正確性を競います。

林業の現場では、木が予期せぬ方向に倒れてしまうことから発生する“かかり木”を処理する際に、事故が起きてしまうケースが多くあります。かかり木が発生しないよう、立木を狙った場所に正確に切り倒す技術が競技のポイントとなっており、伐木競技においてもっとも配点の高い競技となっているのが、この伐倒競技です。

■主なルール

切り出した受け口と追い口から、木がどの方向へ倒れるかが推定できるので、切り出した受け口の深さ、角度、受け口と追い口の高さの差を1mm単位で計測し採点します。

また、退避に関する安全性も大きなポイントです。退避において、場所や方法(背を向けるなど)が不適切であると、ペナルティが課せられてしまいます。



審判と計測員は競技会の要！



伐木競技を行うにあたっては、審判や計測員は重要な役割を担っています。
競技解説者の縣さんによれば、「この競技が現場で働く従事者の危険防止・安全向上に役立つよう考案されたものである以上、選手に与えられる点数は厳正なものである必要があります。だからこそ一つ一つの競技にはたくさんの加点・減点項目が設定されていて、それをチェックする審判、計測員の技能はとても重要なのです。」とのこと。事前に行われた講習会では、選手とともに審判と計測員が参加し、競技の趣旨を理解し、チェック項目・計測方法などについて学んでいます。競技を通じて、選手だけでなく審判や計測を行うスタッフも、安全技能の向上が図られます。
競技会では、選手一人ひとりの実技に対し、計測員と審判が真剣なまなざしで競技を見届け、競技結果を入念に確認する姿が印象的でした。
縣さんはこう付け加えます。「今後この競技会を継続して開催していくためには、審判、計測スタッフの養成にも力を入れていくことも重要です。」



大会当日の様子



多くの来場者を迎えて

長野県では初開催となった「信州伐木チャンピオンシップ」。会場には林業関係者や地域住民などおよそ300人が来場しました。出場選手にエールを送る仲間の皆さんや、唸り上げるチェーンソーの音に驚く小さいお子さんを連れたご家族も。



本競技会唯一女性のエントリー
神農千愛（じんのうちなり）さんは、
林業大学校の卒業生。
JLC大会は過去2回出場し
3位入賞の経験があります。



来場者の声



家の雑木を払うために小型のチェーンソーを使うけれど、安全への意識が薄かったと反省しています

スタートしてからの選手の動きが素早いし無駄がない。チェーンソーを体の一部のように扱っているのがすごいと思いました。

木材関連の事業所から見に来ました。うちの若手の作業員にも勉強してもらい競技会参加も検討したいと思いました。



伐倒競技(マストツリー) デモンストレーション～表彰式



伐倒競技(マストツリー) デモンストレーション

伐倒競技(簡易方式)の競技終了後、2回目のデモンストレーションとして、伐倒競技(マストツリー)が行われました。

伐倒競技(簡易方式)は、60～90cmの丸太を立木と見立てて競技を行いましたが、伐倒競技(マストツリー)は、およそ15mの木を使用し、伐倒を行う競技です。

デモンストレーションを務めたのは、2024年に青森県で開催された「第5回日本伐木チャンピオンシップ」でジュニアクラス総合1位の成績を収めた山岡さんです。

デモンストレーション中は、会場中の人々が固唾をのんで見守り、鈍い地響きを立てマストツリーが伐倒されるとどよめきと大きな拍手が沸きあがりました。15mほどの木が倒れる迫力と、伐倒方向の目標物としていた木杭に伐倒した木があと数cmで触れるという正確な技術を目の当たりにしました。その後、選手も観客も伐倒された木を見学、競技会の余韻に浸っているようでした。



表彰式

林業事業体や団体、林業大学の学生、県職員など50名を超えるスタッフにより運営され、多くの林業関連企業の協賛を得て開催された「信州伐木チャンピオンシップ2024」。伐木競技の経験者であるエキスパートクラスに7名、今回が初の競技参加となるビギナークラスに13名、併せて20名の選手が持てる技術を互いに競いあう中で、事業体間の交流や林業の魅力発信など、今後の展開に期待が持てる競技会となりました。



ビギナークラス
優勝：山本さん



ビギナークラス
2位：高橋さん



ビギナークラス
3位：小山さん



エキスパートクラス
優勝：江田さん



エキスパートクラス
2位：川村さん



エキスパートクラス
3位：小酒井さん



競技結果



■エキスパートクラス *伐木競技の経験がある方

順位	選手 No.	氏名	所属	丸太合わせ 輪切り競技	伐倒競技(簡 易方式)	合計
1	2	江田 能教	有限会社矢守産業	163	646	809
2	9	川村 岳	有限会社カネホ木材	158	650	808
3	3	小酒井 啓治	有限会社矢守産業	162	624	786
4	4	神農 千愛	有限会社矢守産業	130	650	780
5	1	松村 哲也	東京大学特任研究員 (林業大学校非常勤講師)	135	638	773
6	5	有村 凌空	株式会社つなぐ里山	172	594	766
7	14	溝口 翔太	細川木材株式会社	144	563	707

■ビギナークラス *今大会で初めて伐木競技に取り組んだ方

順位	選手 No.	氏名	所属	丸太合わせ 輪切り競技	伐倒競技(簡 易方式)	合計
1	8	山本 鷹彬	ツリーライフサポート株式会社	156	626	782
2	12	高橋 良太	有限会社板橋林産	161	609	770
3	19	小山 恭平	長野県林業大学校	113	648	761
4	7	倉田 洋平	ツリーライフサポート株式会社	142	587	729
5	10	金田 純平	有限会社南信チップセンター	162	562	724
6	15	桑原 二千夏	中信森林管理署	151	564	715
7	11	小林 達也	有限会社南信チップセンター	135	570	705
8	6	田畑 雅伸	ツリーライフサポート株式会社	147	528	675
8	13	小松 鉄也	有限会社板橋林産	119	556	675
10	17	川面 優	企業組合 山仕事創造舎	117	555	672
11	20	新宮 慈門	長野県林業大学校	87	574	661
12	18	衛藤 大空	長野県林業大学校	80	555	635
13	16	倉本 高緒見	飯伊森林組合	4	198	202



実行委員長・審判の言葉



実行委員長 千代 登

所属：長野県林務部信州の木活用課

持続可能な社会の実現等に向けて、森林が持つ多面的な機能の役割が非常に重要視されている今、森林を保全し管理する林業への期待は益々大きくなっています。そうした中で、林業を担う人材の育成と確保は待ったなしの課題として、林業に携わる関係者が一丸となって取り組むべきテーマとなっています。

そこで、「安全意識の向上」、「林業の認知度の向上」、「林業関係者の交流」を目的に、県内では初めての伐木チャンピオンシップを開催したところ、多くの選手や関係者、ギャラリーの皆さんにご参加いただき、成功裏に終わることができました。

選手の皆さんには、優れたチェーンソーの操作技術を披露いただき、非常に見応えのある競技会にさせていただいたのと同時に、競技会に至るまでの講習会や自主練習を通じて、チェーンソーの安全な操作を改めて考える機会になったと思います。

また、ご来場の皆さんには、林業の一部ではありますが、普段目にする事の少ないチェーンソーの操作技術を間近でご覧いただき、林業の格好良さ、奥深さを感じていただけたと思います。

今回、長野県では初めての開催ということもあって、手探りで作り上げた競技会となりましたが、競技会の成功は、選手の皆様、協賛企業・団体の皆様、運営スタッフの皆様のご支援、ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

競技会は継続して開催したいと考えていますので、来年度に向けて、さらに競技に対する大勢の方の理解の促進につなげていただくとともに、選手及び競技をご覧になった方には、競技を通じて学んだこと、感じたことを日々の安全作業にも生かしていただければ幸いです。

本競技会に関わっていただきました全ての皆様に心より御礼を申し上げます。



審判 縣 毅史

所属：株式会社ツリークライミングワールド

選手の皆さんは講習会からとても熱心に取り組んでいただいたことで、競技会ではこの競技の本質である「安全技術の習得」と「安全を最優先した行動」を体感していただけたのではないかと感じております。

安全を優先して作業を行う意識と技術は想像以上に難しく、すぐに完璧に出来ることではなく、日々の意識と練習による習慣づけが最も大切です。信州伐木チャンピオンシップに参加したことにより選手として参加された皆さんが確実に変化したことを審判として感じる事ができ、とても嬉しく思います。

競い合いながら安全意識と技術を向上するという新しい形の取り組みを皆さんで継続していただければ嬉しく思います。また、新たに参加する事業者や選手が増えることで長野県の林業における安全性が高まっていくことにも期待しております。

最後に、何か月も前から準備され素晴らしい競技会を作り上げた実行委員会、運営スタッフの皆様におかれましてはこのような素晴らしい大会の審判、解説として関わらせていただき心より感謝申し上げます。



選手の感想



- ・ベストを出すことは出来なかったが、多くの人に観てもらい緊張感をもって競技が出来て楽しかったです。
- ・林業業界では頻繁に作業安全が説かれ研修が行われるが、頻繁すぎて慣れっこになってはいないか。競技の普及は得点というインセンティブが安全への自発的行動を促す新しい安全教育として重視しても良いと思う。
- ・安全に対する意識は競技を通じて身につけていると思います。ただ競技と現場では環境などが違うのでその場に合った技術を競技の中から結びつけて行く必要があると思います。
- ・自分が使うチェーンソーやバーの特徴や個性を正しく認識することの重要性を感じました。また、ブレーキの癖づけひとつだけで安全性がかなり変わることを理解しました。
- ・他者から見られていると言う感覚が、作業への意識をより良くしてくれると思います。伐採は以前より確実に上手くなりました。
- ・まだまだ林業従事者への競技の知名度/認識度は低いと感じた。競技への挑戦を通じて作業安全への行動が自然に身につくという利点を広めたい。
- ・まだ競技の知名度が低いため、ルールや基本動作が周知されていないと感じた。年間を通じて定期的に事前練習会を開催することで事業体の理解度、参加者の拡大が図れるのではないだろうか。



協賛企業・団体紹介



本競技会の開催にあたっては、以下の協賛企業、団体から
ご支援・ご協力をいただきました。



大井木材株式会社



長野県森林組合連合会
木曾森林組合
木曾南部森林組合
南木曾町森林組合



綿半建材株式会社

長野県木材協同組合連合会 /
林業・木材製造業労働災害防止協会長野県支部
池田木材株式会社 / 有限会社板橋林産 /
木曾木材生産事業協会 / 株式会社木原木材店 /

